

基礎看護学

専門分野

(令和4年度1年生用)

授業科目	療養生活援助技術 II	講師	氏名	①内藤直美 ②西岡加代子	開講年次	単位・時間		
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
科目のねらい	私たちの生命を維持するための「食べること」「排泄すること」「清潔にすること」は、すべての人に欠かせない生活行動であり、これらの生活行動の意義を考え、適切な維持ができなくなった人への援助方法について学習する。療養生活援助技術Iで修得した技術を活用し、対象の生理的欲求を満たす援助技術を修得する。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活のための食事の意義を説明できる。 2. 食事介助の際の留意点を説明できる。 3. 排泄の意義を説明できる。 4. 排泄援助の留意点を説明でき床上排泄の援助ができる。 5. 清潔の意義を説明できる。 6. 清潔援助時の留意点を説明でき清潔が保持できない対象に適した清潔援助ができる。 							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事を援助する人、援助される対象の羞恥心や心情を考えることができる。 2. 排泄援助が必要な対象の羞恥心や心情を説明できる。 3. 清潔援助が必要な対象の羞恥心や心情を説明できる。 4. 演習で学んだ技術を様々な対象者（小児期、老年期）を想定し、対象に応じた援助技術を説明できる。 5. 演習で学んだ技術を様々な健康障害を持つ対象を想定し、対象に応じた援助技術を説明できる。 							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習前後に自己練習ができる。 2. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。 3. 主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に凝集させオリジナルなものにまとめ提出できる。 4. 主体的に教員に指導を受けるためのアプローチができ、常に技術修得に向けた行動ができる。 							
科目評価	①定期試験（実技）80% ポートフォリオ 20% 合計100% ②定期試験（筆記）100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版） 系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術I（医学書院） 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護学II（医学書院）							
参考文献	看護技術プラクティス（Gakken） 写真でわかる基礎看護技術アドバンス（インターメディカ）							
回数	教育内容	教育方法				講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	到達レベル	その他			
1	食事の意義	○	○	I		内藤直美	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 各専門看護学	テキストに提示しているQRコードから動画を視聴し、演習に臨む。 演習時は白衣着用、アーツルーム演習後は事後学習をポートフォリオに追加する 事前学習：食事介助
	食事介助の方法	○	○	I				事前学習：口腔ケア
2	口腔ケアの目的 口腔ケアの方法	○	○	I				事前学習：口腔ケア
3	健康生活における排泄の意義	○						
4	トイレ・ポータブルトイレにおける排泄介助	○	○	I				事前学習：トイレ・ポータブルトイレ援助
5	床上排泄の種類 おむつによる排泄援助（おむつの種類、おむつ交換の方法）	○	○	I				事前学習：床上排泄の種類 おむつの種類
6	便器を使用した床上排泄	○	○	I				事前学習：便器排泄援助
7	清潔援助の効果、留意点 入浴動作による影響	○						事前学習：入浴援助
8	整容 爪切り、髭剃りの実施	○	○	I				
9	衣生活の援助	○		I				
10 11	全身清拭・寝衣交換		○	I				事前学習：全身清拭・寝衣交換
12	洗髪		○	I				事前学習：洗髪
13 14	足浴・手浴		○	I				事前学習：足浴・手浴
15	まとめ		○					GW：療養生活の援助を受ける対象の気持ちを考える 講義終了後にポートフォリオ提出
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							